

教科	国語		科目	国語総合		単位数	4	
学年	1年		類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科				
教科書（出版社）	改訂版 高等学校国語総合（数研出版）							
副教材（出版社）	改訂版 高等学校国語総合 準拠ワーク（数研出版）							
授業の概要	講義や、グループ学習を通して、国語の基礎・基本的な知識、技能を習得し、思考力・判断力・表現力等を養う。							
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 様々なジャンルの文章を的確に理解する能力を養成し、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、豊かな感受性を養う。 2 表現や読書活動を通して言語感覚の向上を図り、言語文化に対する関心を深める。 3 様々な古典作品を読解することで、その時代背景や人々の心情を理解する。 4 基礎・基本的な事項の理解をもとにして、古典を読み味わう態度を養う。 5 古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。 6 表現上の特徴を理解し、主体的に読解・鑑賞する能力を養う。 							
年間学習計画		学習内容（単元・項目）			学習目標			
	1学期	<ol style="list-style-type: none"> 1 随想 <ul style="list-style-type: none"> ・わたしであり、あなたでなくちゃ 2 古文入門 <ul style="list-style-type: none"> ・児のそら寝 3 漢文入門 4 故事 <ul style="list-style-type: none"> ・漁夫之利 5 小説（一） <ul style="list-style-type: none"> ・羅生門 6 随筆（一） <ul style="list-style-type: none"> ・徒然草 7 故事 <ul style="list-style-type: none"> ・狐借虎威 8 短歌 			<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考える「ひとりきり」の重要性を理解し、「自分らしさ」の問題について考える契機にする。 ・古文と現代文の違いを知り、古文を読む基礎を学ぶ。 ・説話のおもしろさを読み味わう。 ・漢文訓読の基礎を身に付ける。 ・音読を繰り返し、漢文訓読に慣れる。 ・故事成語とそのもととなった故事に関心を持つ。 ・作家の技巧を学び、小説を読む楽しさを体験する。主人公の心理的葛藤や心情の変化をたどり、エゴイズムについて考える。 ・人間、社会などに対する先人のものの考え方にふれ、自分たちの価値観について改めて考える。 ・故事成語の成り立ちを理解し、漢文の世界に興味を持つ。 ・登場人物のやりとりのおもしろさを理解する。 ・歌のリズムを意識して音読し、どのような感動が歌われているか考える。 			
	2学期	<ol style="list-style-type: none"> 1 評論（一） <ul style="list-style-type: none"> ・水の東西 2 歌物語 <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢物語 3 史伝 <ul style="list-style-type: none"> ・鶏口牛後 4 小説（三） <ul style="list-style-type: none"> ・富嶽百景 5 軍記物語 <ul style="list-style-type: none"> ・平家物語 6 唐詩 			<ul style="list-style-type: none"> ・二項対立的な評論を読み、論理的思考力を養う。 ・西洋文化と対比された、日本文化の特徴について理解を深める。 ・歌物語における和歌の役割を理解させ、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・中国戦国時代の時代背景について学び、背景知識を養う。 ・史伝の表現を学び、思考力や批判力を養う。 ・文章に描かれた登場人物の心情や情景を読み味わい、感想をまとめる。 ・文章のリズムを意識しながら音読する。 ・登場人物の言動からその心情を読み取る。 ・唐詩に描かれた情景や心情を読み味わう。 			
	3学期	<ol style="list-style-type: none"> 1 評論（二） <ul style="list-style-type: none"> ・「わらしべ長者」の経済学 2 日記文学 <ul style="list-style-type: none"> ・土佐日記 3 文章 <ul style="list-style-type: none"> ・雑説 4 思想 <ul style="list-style-type: none"> ・論語 ・弟子 			<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章の構成や展開を確かめ、筆者の主張を読み取り、経済学的な発想に興味・関心を持つ。 ・表現の技法や文体などの工夫をとらえ、作者のものの感じ方やとらえ方を正しく理解する。 ・比喩表現を用いて何を訴えようとしているのか、筆者の真意を読み取る。 ・孔子はどのような生き方を理想としたのかを読み取り、現代に通じる「論語」の魅力について考え、発表する。 			
観点別評価	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解			
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしているか。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているか。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているか。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているか。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているか。			
備考	5つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめりに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。							

教科	地理歴史	科目	世界史A	単位数	2
学年	1年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	明解 世界史A (帝国書院)				
副教材(出版社)					
授業の概要	教科書に沿って、本文中の内容を理解する。概論だけでなく、歴史的人物や文化・芸術、トピックを踏まえながら、世界史を学習する。				
授業の目標	世界の歴史を様々な資料を通して理解し、現代の諸課題を歴史的観点から考察することによって、歴史的思考力を養い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を育てる。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	1 前近代の諸文明 (1) 人類の始まりと東アジアの文明 (2) 南アジア世界・東南アジア世界 (3) 西アジア・北アフリカの文明 (4) ヨーロッパの文明 (5) 南北アメリカの文明 (6) ユーラシアの交流圏	・地域の自然環境や風土の違いによって生まれた諸文明について、東アジア、南アジア・東南アジア、西アジア・北アフリカ、ヨーロッパ、南北アメリカそれぞれの地域的なまとまりからその歴史的展開を理解する。		
	2 学期	2 一体化に向かう世界から、欧米の工業化とアジア諸国の動揺 (1) 繁栄するアジア (2) 大航海時代と新たな国家の形成 (3) ヨーロッパとアメリカの諸革命 (4) 自由主義とナショナリズムの進展 (5) アジア諸国の動揺 (6) 東アジアの大変動	・近現代社会を理解するための前提となる16世紀以降の世界商業の進展及び資本主義の確立を中心に、世界が一体化に向かう過程を世界の動向と日本とのかかわりに着目しながら理解する。		
	3 学期	3 世界大戦から地球社会へ (1) 現代世界の芽生え (2) 第一次世界大戦 (3) 第二次世界大戦 (4) 冷戦の時代 (5) 地球社会への歩み	・地球規模で一体化した構造をもつ現代世界の特質とその展開の過程を理解し、人類の課題について、世界の動向と日本とのかかわりに着目しながら歴史的観点から考察する。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとしている。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化に留意しながら公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有効な情報を選択して読み取ったり、図表にまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄や地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめりに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	数 学	科 目	数 学 I	単位数	3
学 年	1 年	類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	最新数学 I (数研出版)				
副教材(出版社)	パラレルノート数学 I (数研出版)、3 ROUND 数学 I (数研出版)				
授業の概要	数と式、方程式と不等式、2次関数、データの分析は中学校で既習の内容を復習し発展させたものである。集合と論証、三角比は新しい内容である。				
授業の目標	数と式、集合と論証、2次関数、データの分析、三角比について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようになる。				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学 習 目 標		
	1 学 期	第1章 数と式 第1節 数と式 第2節 1次不等式 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	<ul style="list-style-type: none"> ・整式についての加法、減法、乗法の計算及び展開公式・因数分解公式を自在に使いこなせるようにする。 ・不等式の性質を理解するとともに、ともに1次不等式の解き方を修得する。 ・2次関数のグラフが放物線であることを理解し、式変形をし、グラフを描けるようにする。2次関数の最大・最小を理解し、具体的な問題に応用できるようにする。 		
	2 学 期	第2節 2次方程式と2次不等式 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 正弦定理・余弦定理	<ul style="list-style-type: none"> ・2次関数のグラフと2次方程式の関係を理解し、2次方程式の解を求める様々な方法についての技能を修得するとともに、2次不等式を解けるようにする。 ・三角比としてのタンジェント、サイン、コサインの意味を理解し、直角三角形の辺と角の間の基本的な関係を使えるようにする。 ・座標を用いた鈍角の三角比の求め方を理解する。 ・一般の三角形の辺と角との間に成立する三角形の面積の公式と、正弦定理、余弦定理を導き、それらを活用できるようにする。 		
	3 学 期	第5章 データの分析 第2章 集合と命題	<ul style="list-style-type: none"> ・データを整理する必要性を理解させ、度数分布表、ヒストグラム、相対度数、箱ひげ図、相関係数を知る。 ・集合についての基本的な用語やその意味を理解する。命題の真偽、必要条件・十分条件、命題の逆・対偶について理解し、対偶を利用した証明について知る。 		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解	
	関心を持つとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用できるか。	事象を数学的にとらえ、論理的に考えとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えられるか。	事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決できるか。	基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けているか。	
備 考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめりに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2
学年	1年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	高等学校 改訂 科学と人間生活 (第一学習社)				
副教材(出版社)	改訂 ネオパルノート 科学と人間生活 (第一学習社)				
授業の概要	教室での学習活動や、実験・実習作業による探究活動を通して、事物・現象について科学的な考察力や知識を習得する。				
授業の目標	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解を深め、科学的な見方や考え方を養いながら、科学に対する興味・関心を高める。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第Ⅰ編 科学技術の発展 第Ⅱ編 人間生活の中の科学 第1章 物質の科学 第1節 材料とその利用	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発展が人間生活にどのように貢献してきたか理解する。 日常生活にみられる身近な物質の素材となる材料の種類、性質、及び用途について理解する。 プラスチックや金属の性質や特徴、分子構造について学習し、物質の再利用方法について理解を深める。 		
	2 学期	第2章 生命の科学 第1節 生物と光 第3章 熱や光の科学 第1節 熱の性質とその利用	<ul style="list-style-type: none"> 植物の生育と光との関係、動物の行動及びヒトの視覚と光とのかかわりについて理解する。 熱の性質やエネルギーの変換と保存、有効利用について理解する。 温度、熱の伝わり方、仕事とエネルギーについて学習し、エネルギー資源の有効利用について理解する。 		
	3 学期	第4章 地球や宇宙の科学 第1節 身近な自然景観と自然災害 第Ⅲ編 これからの科学と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> 日本列島の成因、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について理解する。 自然災害について学習し、防災について科学的に理解する。 これまで学習してきたさまざまな項目に関する課題を設定し、科学的に調査・研究を行い、論理的にレポートを作成して、的確にプレゼンテーションする。 		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解	
	身近な事物・現象に関心をもち、科学的な視点・考察力を養うとともに、科学技術に対する関心を高める態度を身に付けている。	身近な生活の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、これからの科学と人間生活とのかかわり方について科学的・論理的に考える。	観察、実験の技能を習得するとともに、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	科学の発展による人間生活への貢献、現代の人間生活との関連性についての知識を身に付け、これからの人間生活と科学のあり方について理解する。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	保健体育		科目	体育	単位数	2
学年	1年		類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	現代高等保健体育 改訂版(大修館書店)					
副教材(出版社)	現代高等保健体育ノート 改訂版(大修館書店)					
授業の概要	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る運動を実践します。					
授業の目標	<p>1 各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる能力や態度を育成します。</p> <p>2 集団行動を正しく理解し、秩序正しく能率的に行う能力を養い、体育実技において安全と運動効率の向上を目的とし、服装の徹底と自己管理を行う資質を育成します。</p>					
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)			学習目標		
	1 学 期	<p>1 体づくり運動</p> <p>(1) 体ほぐしの運動</p> <p>ア 集団行動(基本動作)</p> <p>イ ストレッチング</p> <p>(2) 体力を高める運動</p> <p>ア 時間走</p> <p>イ 持久走(新体力テスト)</p> <p>2 球技選択Ⅰ</p> <p>(1) バドミントン</p> <p>(2) テニス</p> <p>(3) 卓球</p> <p>(4) 柔道</p> <p>3 体育理論Ⅰ</p>		<p>・基本的な集団行動の定着と日々の活動の中での応用を目指します。</p> <p>・主運動を行う前の、正確な体操及びストレッチを学びます。</p> <p>・自分の体力の実態を知るため、体力テストを行います。</p> <p>・集団的技能や個人技能の程度に応じてゲームができるようになります。</p> <p>・各技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から作戦を立て、工夫をすることの楽しさや喜びを味わいます。</p> <p>・運動・スポーツの文化的特徴について学びます。</p>		
	2 学 期	<p>4 球技選択Ⅱ</p> <p>(1) ソフトボール</p> <p>(2) バレーボール</p> <p>(3) ハンドボール</p> <p>5 球技選択Ⅲ</p> <p>(1) サッカー</p> <p>(2) バスケットボール</p> <p>6 体育理論Ⅱ</p>		<p>・集団的技能や個人技能の程度に応じてゲームができるようになります。</p> <p>・各技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から作戦を立て、工夫をすることの楽しさや喜びを味わいます。</p> <p>・運動・スポーツの文化的特徴について学びます。</p>		
	3 学 期	<p>7 陸上競技(長距離走)</p> <p>時間走・記録測定</p> <p>(男子 3000m・女子 1500m)</p> <p>8 体育理論Ⅲ</p>		<p>・一定の長い距離を走る中で、自分に合ったペースコントロールが分かり、自己記録を更新できるよう挑戦します。</p> <p>・運動・スポーツの文化的特徴について学びます。</p>		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断		運動の技能	
	<p>・運動の楽しさや喜びを深く味わうために自ら進んで運動しようとしている。</p> <p>・公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いている。</p>		<p>・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出している。</p> <p>・課題解決を目指し、工夫している。</p>		<p>・運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する事項を理解し、身に付けている。</p>	
備 考	4つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には、各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教科	保健体育		科目	保健	単位数	1
学年	1年		類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	現代高等保健体育 改訂版(大修館書店)					
副教材(出版社)	現代高等保健体育ノート 改訂版(大修館書店)					
授業の概要	現代保健社会における健康やその考え方が変化していること、生活習慣病や喫煙、飲酒、薬物乱用などの問題に対応する必要があること、適切な意志決定と行動選択が重要となること、ストレスに適切に対処することや自己実現を図る努力が必要であること、交通事故防止する重要性や応急手当の方法などを中心に授業を展開します。					
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できるような意欲を育てます。 2 心身の健康や安全に関する問題解決を目指し、適切な意志決定を行い、選択すべき行動を適切に判断できる力を身に付けます。 					
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)			学習目標		
	1 学期	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会と健康 <ul style="list-style-type: none"> (19) 交通事故の現状と要因 (20) 交通社会での運転者の資質と責任 (21) 安全な交通社会づくり (22) 応急手当の意義とその基本 (23) 心肺蘇生法 (24) 日常的な応急手当 (1) 私たちの健康のすがた (2) 健康のとらえ方 		<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度及び交通環境の整備などが重要であること、また、交通事故には責任や補償問題が生じることを理解します。 ・傷害や疾病に際しては、心肺蘇生法などの応急手当を行うことが重要であり、応急手当には正しい手順や方法があることを理解します。 		
	2 学期	<ol style="list-style-type: none"> (3) 健康と意志決定・行動選択 (4) 健康に関する環境づくり (5) 生活習慣病とその予防 (6) 食事と健康 (7) 運動と健康 (8) 休養・睡眠と健康 (9) 喫煙と健康 (10) 飲酒と健康 (11) 薬物乱用と健康 (12) 現代の感染症 (13) 感染症の予防 		<ul style="list-style-type: none"> ・健康の考え方やその保持増進の方法は国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきており、健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択が重要となっていることを理解します。また、我が国や世界では様々な保健活動や対策が行われていることを理解します。 ・健康を保持増進するとともに、生活習慣病を予防するためには、食事、運動、休養及び睡眠の調和がとれた生活の実践及び喫煙、飲酒に関する適切な意志決定や行動生活が必要であることを理解します。 ・薬物乱用は心身の健康などに深刻な影響を与えることから行ってはならないことや医薬品を正しく使用する必要があることを理解します。 		
	3 学期	<ol style="list-style-type: none"> (14) 性感染症・エイズとその予防 (15) 欲求と適応機制 (16) 心身の相関とストレス (17) ストレスへの対処 (18) 心の健康と自己実現 		<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防には、適切な対策が必要であることを理解します。 ・人間の欲求と適応機制には様々な種類があること及び精神と身体には密接な関連があること、また精神の健康を保持増進するためには、欲求やストレスに適切に対処するとともに自己実現を図るよう努力していくことの重要性を理解します。 		
観点別評価	関心・意欲・態度 ・健康の保持増進について関心を持っているか。仲間と協力して資料を集め、意見交換をしている。	思考・判断 ・自分のこれまでの学習や体験、資料などを基にしたり、他人の意見や考えを聞いたりして、課題の設定や解決の方法を考え、判断している。	運動の技能	知識・理解 ・適切な生活行動を選択し実践することであることを理解し、問題解決に役立つ知識を身に付けている。		
備考	3つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には、各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教科	芸術		科目	音楽 I	単位数	2
学年	1年		類型	流通経済科・情報ビジネス科 地域ビジネス科・商業科		
教科書 (出版社)	高校生の音楽 1 (教育芸術社)					
副教材 (出版社)						
授業の概要	音楽の諸活動を通して、創造的な表現の能力を伸ばし、鑑賞の能力を高め、音楽を愛好する心情を養う。音楽の組み立て方の把握と表現との関わりや、簡単な旋律の創作、タブレット端末による創作表現を体験する。					
授業の目標	音楽の諸活動を通して、創造的な表現の能力を伸ばし、鑑賞の能力を高め、自ら音楽作品や総合芸術に積極的にふれあい、生涯にわたって音楽を愛好する心情を養う。					
年間 学習 計画 画	学習内容 (単元・項目)			学習目標		
	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 校歌 リコーダー実習 のぼら カロ・ミオ・ベン メヌエット J.S.バッハ 		<ul style="list-style-type: none"> 校歌の意義を認識し、歌詞の意味や表現に親しむ。 アルトリコーダーの演奏の基本を理解する。 原語歌詞に親しみ、感情豊かに歌う。 楽曲の歌唱と鑑賞を通してイタリア歌曲に親しむ。 2重奏に取り組み、完成度の高い演奏を目指す。 バッハの作品を鑑賞し、バロック様式の音楽に親しむ。 		
	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 和音と旋律 故郷 モーツァルト DTMの実習 		<ul style="list-style-type: none"> 和音を利用して旋律や対旋律を創作する。 季節に合った楽曲を歌い、歌う喜びを感じ取る。 「アマデウス」を鑑賞し、時代背景やオペラなどの作品の背景を知る。 タブレット端末の作曲アプリを通して楽曲の創作活動に親しむ 		
	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ボレロ 情景描写の音楽 日本の伝統音楽 		<ul style="list-style-type: none"> オーケストラの楽器とその音色を知り、その響きの豊かさを味わう。 情景描写の音楽 (標題音楽) の代表作品の鑑賞をする。 名曲の特徴を絶対音楽と標題音楽の視点から考えさせる。 雅楽や、能・狂言を鑑賞し、その心情や音楽と舞踊の日本的な美を味わう。 		
観点別 評価	関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力		
	様々な表現形態による歌唱活動に関心を持ち、それらの演奏効果を生かして歌うことに主体的に取り組もうとしている。	リズム、旋律、テクスチュア、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感じながら、歌詞の内容をかかわらせて、様々な表現形態による歌唱の特徴を生かした音楽表現を工夫して、どのように歌うか表現意図をもっている。	曲想を歌詞の内容とかわらせて、イメージをもつて音楽表現をするために、必要な歌唱の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、日本や世界の歌、楽器の音色の特徴と表現の効果上とのかわりを感じ取って、その文化的・歴史的な背景を踏まえて音楽の多様性を理解し、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。		
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2
学年	1年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・ 地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	新編 書道 I (教育出版)				
副教材(出版社)					
授業の概要	漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書に関する表現や鑑賞活動を通して、書の基礎的な能力を伸ばし、物の見方、考え方を育成する。				
授業の目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化について理解を深める。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	1 書写から書道へ	1 中学校で学習した書写の学習内容を確認し、書写を基礎としながら、新たに書への視野を広げ、書道の学習の意義や目標を理解する。		
		2 楷書	1 各古典を鑑賞し、それぞれの古典の作者や時代背景を理解する。 2 楷書の基本点画、線質の表し方、結構や字形の取り方を学習する。		
		3 行書	1 代表的な古典を鑑賞し、作者や時代背景に関する理解を深める。 2 古典の特徴を把握し、行書の基本的な用筆法を学習する。		
2 学期	4 漢字仮名交じりの書		1 自らの思考や感動を表現できる「ことば」を選び、漢字や仮名の特徴を理解し、用具、用材や形式、構成などの表現方法を工夫し、作品を制作する。		
	5 篆書	1 逆筆・蔵峰を学習する。			
	6 篆刻	1 篆刻をとおして、書を刻す文化を学習する。			
3 学期	7 仮名		2 刻し終えた印を鑑賞し、印の美を理解する。 1 仮名の成立と変遷を理解する。 2 仮名の基礎を学ぶことにより、流動美、紙面構成を学習する。		
観点別 評価	書への関心・意欲 ・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力	
	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけて表している。	書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	
備考	書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組んでいるか。授業態度、提出作品を総合的に判断して評価する。				

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語 I	単位数	3
学年	1 年	類型	流通経済科・情報ビジネス科		
教科書（出版社）	Vivid English Communication I NEW EDITION（第一学習社）				
副教材（出版社）	New エキスパート英語検定練習問題集 3 級（桐原書店）Baton Pass（啓隆社）				
授業の概要	1 予習で分からなかった箇所の説明を聞いてノートにまとめるとともに、内容に対する理解を深める。 2 音読練習で英語の発音に親しみ、ペアワークやグループワークなどを通して自己表現を行う。				
授業の目標	1 積極的に英語に触れ、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 2 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づいて、情報や考えなどを伝えたり理解する基礎的な力を養う。				
年間 学習 計画	学習内容（単元・項目）		学習目標		
	1 学期	Lesson1 You Can Do Something for the Olympics Lesson2 Stories behind Names Lesson3 Look Cool on Your Streets 学習内容についての問題演習	・中学で既習の文法事項を復習しながら、比較的易しく親しみやすいテーマの題材を通して必要な情報を的確につかみ、簡単な自己表現活動を行う。 ・学習のポイントは、現在形、過去形、未来を表す表現、現在進行形、過去進行形、助動詞、不定詞、動名詞、現在完了形、受身、比較などである。		
	2 学期	Lesson4 Our Actions Can Make Electricity Lesson5 Laughter I the Best Medicine Lesson6 Take a Chance on You Lesson7 Japanese Dishes from Abroad 学習内容についての問題演習	・新出の文法事項や表現を学習しながら、社会の中の自分や世界の中の日本について考える比較的短い題材を通して必要な情報を的確につかむ。また、その情報をもとに適切な自己表現活動を行う。 ・学習のポイントは、現在分詞、過去分詞、関係代名詞（主格）、It is … (for A) to ～、関係代名詞 what、現在完了進行形、It is+形容詞+that-節、関係副詞（where, when, why, how）などである。		
	3 学期	Lesson8 The Sphinx in Danger Lesson9 A Bridge Between Japan and the U.S. Reading Education First! 学習内容についての応用演習	・新出の文法事項や表現を学習しながら、日常生活の環境に与える影響や国際交流にまつわる題材を通して重要な情報を的確につかむ。また、その情報をもとに意見を交換し合う。 ・学習のポイントは、強調構文、助動詞を含む受身、S+V+O+C(=原形不定詞)、S+V+O+O(=現在分詞) などである。		
観点別 評価	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解	
	積極的な態度で言語活動に参加し、相手とのコミュニケーションを図ろうと努力している。	聞き手に伝わるように英語で音読することができる。英語で話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。情報や考えなどを英語で簡潔に書くことができる。	英語を聞いて理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。英語を読んだり、概要や要点をとらえたりすることができる。	単語、熟語、文法などについて、その意味や適切な使い方を理解している。英語を使う上で必要な文化的背景について理解している。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	商業	科目	ビジネス基礎	単位数	2
学年	1年	類型	情報ビジネス科		
教科書(出版社)	新訂版ビジネス基礎 (東京法令出版)				
副教材(出版社)	珠算電卓実務検定模擬問題集1級・2級(暁出版)				
授業の概要	商業を学ぶ目的と学び方、学習分野について理解するとともに、経済活動とビジネスに関する知識を身に付けます。ビジネスと流通活動に関する基礎的な知識を習得するとともに、売買計算に関する知識と技術を習得します。				
授業の目標	ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得し、経済社会の一員として望ましい心構えを身に付けるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応できる能力と態度を習得します。また商業を学ぶ目的や学び方、卒業後の進路などについて主体的に考え、意識を深めます。				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	第1章 商業の学習ガイダンス 第2章 ビジネスとコミュニケーション 第5章 ビジネスと売買取引	<ul style="list-style-type: none"> ・商業を学ぶ目的・学び方について学習します。 ・商業の学習内容の全体像を把握し、学習分野とその目的とする能力、科目の構成を学習します。 ・ビジネスにおける基本的なマナーや人間関係構築の意義、ビジネスに対する望ましい心構えを学習します。 ・ビジネスの場面に応じた言葉の使い方を学習します。 ・売買契約成立の手順や文書の作成について学習します。 ・小切手や約束手形、為替手形の仕組みについて学習します。 ・電子商取引の仕組みとICカード型電子マネー等の代金決済の仕組みを学習します。 		
	2 学 期	第3章 経済と流通の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・流通活動における売買取引及び仕入原価、売価、利息、外国貨幣の換算の必要性を理解し、計算技術を習得します。 ・生産・流通・消費に関する諸活動を理解し、市場で価格が決定する事を学習します。 ・生産から消費に至る役割の分担の変化や、小売業の種類や卸売業の役割を学習します。 		
	3 学 期	第4章 企業活動の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・個人企業から多様な企業形態を通して、共通してみられる経営組織の体系を学習します。 ・資金調達の方法とその特徴を学習します。 ・売買業者以外のビジネスについて理解します。 ・税の仕組みや役割について学びます。 ・雇用の形態や雇用に伴う企業の責任について学習します。 		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	ビジネスについて関心を持ち、ビジネスの諸活動への適切な対応を目指して主体的に取り組んでいるか。	ビジネスの諸活動への適切な対応を目指して思考を深め、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断・表現できているか。	ビジネスに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動への適切な対応を合理的に計画しその技術を活用しているか。	ビジネスに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、経済社会の一員としての望ましい心構えについて理解しているか。	
備 考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	商業	科目	簿記	単位数	3
学年	1年	類型	情報ビジネス科		
教科書(出版社)	高校簿記 新訂版(実教出版)				
副教材(出版社)	標準検定簿記問題集(とうほう)				
授業の概要	企業において日常発生する取引を仕訳し、勘定記入を経て、決算に至る簿記の基本的な仕組みについて理解する。また、帳簿や財務諸表を通して、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を身に付ける。				
授業の目標	1 企業における取引の記録・計算・整理に関する知識や技術を習得する。 2 簿記の基本的な仕組みについて理解する。 3 ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力や態度を身に付ける。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第I編 簿記の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 簿記の意味、目的、役立ちなどを理解させ、学習の心構えを養う。 資産・負債・純資産・収益・費用のそれぞれの意味と種類を理解する。 		
		第II編 取引の記帳と決算I	<ul style="list-style-type: none"> 現金、当座預金、その他の預金の意味を理解する。 3分法による商品売買損益の計算法と記帳法を習得する。 第II編で学習したいろいろな勘定科目の意味を理解し、正しい仕訳ができるようにする。 		
	2 学期	第III編 取引の記帳と決算II	<ul style="list-style-type: none"> 約束手形と為替手形の違いを復習し、これらの手形の授受に伴う記帳法を理解する。 		
第IV編 帳簿と伝票 第V編 取引の記帳と決算III		<ul style="list-style-type: none"> 帳簿の種類と、帳簿組織およびそれらと分課制度との関係、帳簿種類の立案について理解する。 普通の売買取引と対比させながら、それぞれの取引の特徴を十分理解する。 			
3 学期	第VI編 本支店の会計 第VII編 複合仕訳帳制	<ul style="list-style-type: none"> 支店会計の意味を理解させ、本支店間および支店相互間の取引の記帳法を理解する。 未達事項の意味と、その整理法を理解させる。 複合仕訳帳の意味と合理化の方法を理解する。 各種の特殊仕訳帳の記帳法と総勘定元帳・補助元帳への転記法を習得する。 複合仕訳帳制における普通仕訳帳の役割を理解する。 			
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	簿記について関心をもち、適正な会計処理を行うことを目指して主体的に取り組もうとするとともに、会計処理を行う実践的な態度を身につけているか。	適正な会計処理を行うことを目指し、基礎的・基本的な知識と技術とともに、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけているか。	簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、適正な会計処理を行うことを合理的に計画し、その技術を適切に活用しているか。	簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その基本的なしくみについて理解しているか。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均して総合的に評価する。				

教科	商業	科目	情報処理	単位数	5
学年	1年	類型	情報ビジネス科		
教科書(出版社)	最新情報処理新訂版(実教出版)				
副教材(出版社)	情報処理検定模擬試験問題集2級ビジネス情報・プログラミング(実教)				
授業の概要	表計算ソフトウェアの活用を中心に、ビジネスにおける情報の処理や活用を実践する。				
授業の目標	1 ビジネスと情報処理について理解し、情報活用能力を高める。 2 表計算ソフトウェアの活用に習熟させ、高度な資格取得を目標にする。 3 正しい情報モラルについて理解し、実践できる能力を養う。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	1章 情報の活用と情報モラル 2章 情報通信ネットワークとセキュリティ管理	・「情報処理」を学ぶ目的を理解する。 ・情報の意義と役割、ビジネスとの関わりを理解する。 ・ソフトウェアの役割を理解し、基本的操作を習得する。 ・情報通信ネットワークの構成や利用形態の概要を理解する。		
	2 学期	3章 ビジネス情報の処理と分析 4章 ビジネス文書の作成 5章 プレゼンテーション	・表計算ソフトウェアの特色を理解し、ビジネス情報の処理に活用するための知識、技術を習得する。 ・ビジネス文書を作成するために必要な基本的知識や技術を習得する。 ・ビジネスに関する情報の収集・処理・分析を行い、報告書や提案書を作成し、プレゼンテーションを行うために技法を身に付ける。		
	3 学期	プログラミングの基礎 ・JAVA 言語の特徴 ・模擬試験問題 ・検定試験問題	・JAVA 言語の特徴を理解する。 ・基本的な模擬問題から検定試験問題を中心に、総合的な理解力を深める。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	ビジネスにおける情報の役割に関心を持ち、科目「情報処理」を学ぶことによって積極的に情報を活用するための知識・技術を習得しようとする意欲を示す。	ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用することを旨として思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動における情報の活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、情報の意義や役割について理解している。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめりに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				